

第7回 柳瀬川回廊事業推進検討委員会（議事要旨）

〔日 時〕 平成29年5月29日（月） 13:00～16:00
〔場 所〕 市内水辺の現地視察、清瀬市健康センター第3会議室
〔出席者〕 委 員 9 名 （欠席者 3 名）
事務局 4 名 清瀬市 都市整備部 水と緑の環境課

〔議事次第〕

- （1）柳瀬川回廊内の水辺の現地視察
- （2）現地視察の総括（於 清瀬市健康センター第3会議室）
- （3）その他（次回日程など）

〔配付資料〕 次第、資料（緑地管理方針 検討図）、「緑地管理方針」（参考用）

【（1）柳瀬川回廊内の水辺の現地視察】

資料（緑地管理方針 検討図）を配布・説明後、視察開始。

- ①石田橋から清瀬橋付近 ⇒ ②金山橋付近 ⇒ ③台田運動公園付近
③の視察終了後、清瀬市健康センターまで移動。

【（2）現地視察の総括】

＜委員から出た意見＞

- ・河川の中は常にかく乱を受けていて、かく乱を受けてからの経過時間の違いや、生息している生物によって植生が変わるので、それを含めて、周囲の中での河川の中の植生の位置づけ、という見方が必要。
- ・雑木林はコナラ、クヌギ中心に植栽・管理され、河畔林はケヤキ、エノキ、ムクノキといった湿った所を好むものが高木になるため、同じような管理はできない。
- ・急斜面が河川沿いに数か所あって、崩れる可能性もあるので、木で柵をするといった対応も必要。前回の視察で見た、台地上の斜面で人が踏み固めて裸地になり、崩壊しかかっている部分とは、同じ斜面でも性質が違うという感じを受けた。性質が違う部分を上手に活かすために、河川の斜面はできるだけ手を入れないのが良いと思うが、台地では手を入れる・入れないところを分別することが必要。
- ・クサヨシ、ツルヨシなど河川の在来種が増えると良い。今は帰化植物が多くて、管理のために草刈りをした場所に、帰化植物が生育している部分もある。
- ・川というのは頻繁に変わるので、長期的な視点で川を作っていくことが必要。
- ・金山橋から下流は、台風など川の増水で木にゴミがかかって景観を乱し、倒木もある。今は清瀬の自然を守る会で片付けや、かかりそうな枝は事前に切っている。回廊の維持管理の方法論も考えなくては、最初だけ良くて、あとは机上の空論になる。

まとめ

委員長 長期的な視点でどんな川として維持していくか、その理想的な姿と、維持管理の部分も答申に入れたいと思います。

【(3) その他】

<答申内容への意見①>

- ・委員会の目的として、これから柳瀬川回廊を後世にどのような形で残していったらよいかということで、作るだけではなく、それをどうつなげていくか、そこまで考えて動かなくてはならない。市の仕事は人が変わると考え方も違ってくるので、後世につなげていくための叩き台を作ってから、最終的な話し合いをしたい。
- ⇒（委員長）2回視察に行きましたので、共通認識も持っていると思います。委員それぞれの見方を持って、こういう問題があって、こうしたら良いのではないかという提案をしてもらいます。すぐに実行できるものと将来的に期待するものがありそうですので、それは原稿の段階で整理しながら考えます。

<答申内容への意見②>

- ・中里地域市民センターのインフォメーションコーナーには、市内外のお客さんが来ているので、柳瀬川回廊を作ったいきさつ、生息する魚や野鳥の写真など柳瀬川について学習できるものを充実させたい。
- ⇒（委員長）今日意見の出た、河川のあり方、河川のゴミ対策を含む維持管理、情報提供の仕方の意見は、答申に、どういう形であれ入れたいと思います。

<答申内容への意見③>

- ・保全地域や一部の市有林は、清瀬の自然を守る会が20年以上かけて管理作業をしていて、同じことを続けるはずなので、提案する必要はないのではないかな。
- ⇒（委員）現実には現実として評価しながら、「将来的にも同じことを続けていく」ということを提案した方が良い。
- ⇒（委員）これからも続けられる保証はないので、方法論については色々な提案があった方が良い。今後は、市民参加の必要性も増してくる。

<委員会の進め方>（5月の会議時点の予定で、若干変更があります）

7月中旬まで 委員長と事務局で目次（案）の検討。決まり次第、委員へ通知。

8月下旬まで 委員から目次（案）への提案。

目次のうち、各自担当できそうなテーマの情報を纏め、事務局へ提出。

8月下旬 3回目の会議。8月下旬までに提出された委員の情報をもとに、事前に大まかな構成を作成し、今後、具体的に何をどうするか方向づけ、委員に担当を割り振る。

10月上旬まで 各自、担当部分の原稿を書き進める。

10月中旬 4回目の会議。事前に答申原案を作成し、会議は全体のチェック程度。

10月末 答申。

委員長 全て答申に入れるというのは無理ですが、特に植物についての提案をいただいて、全体との整合性を取りながら、大事な部分を抜粋するなどの整理はこちらで行い、目次にある事項の内容に反映させて、皆さんに削除・抜粋の説明をしていきたいと思います。どう管理していけば良いのか、何種類くらいの植物が回廊では見られるのか、そういった地元の人しか知らないデータがあると思います。そういったものから、回廊の将来を考えた場合に基礎データとなる、注意をしなくてはならない情報について、前回宿題として出していますが、委員の持つ情報の整理をしておいてもらおうと、中身も濃くなって、一般論ではなく、明確に提案できると思います。宿題の期限は区切らないので、事務局に提出してください。

事務局で纏めたレビューと同様に、「これはできているが、これはできていない、これからはこうしていく」という形で、緑についても纏め、提案型にしたいと思います。全体を見回したときの管理の仕方と、スポット的な管理の仕方、それから寄附された土地の利用の方法についての提案についても、答申に入れ、市が実行に移しやすい提案になればと思います。

全体としては、将来的に展開する必要がある施策を決め、そのためにはこういったものに手を付けていく、といった流れになるのではないかと思います。細かいことを入れだすと大変な量になってしまうので、要点は絞ります。

清瀬市には、これまでに蓄積されたデータがありますので、それも活かして、まず現状を示し、問題点を検討し、今後の対応につなげていくことは、それぞれの項目でも必要ですし、回廊全体というスケールでも同じようなことが必要です。